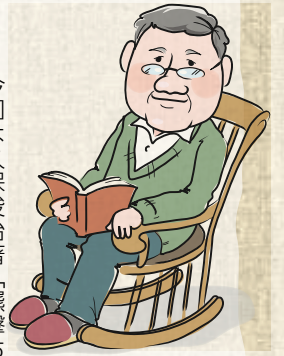


「罌撃ち」



著者：久保俊治  
発行：小学館  
ISBN：9784093878401  
2009年4月20日発売 ¥1,785



今回は久保俊治著「罌撃ち」をご紹介します。1947年、

小樽に生まれた著者は幼いころから父親の猟に勢子役として同行し、「いつか自分の猟犬を育てたい、そして早く銃を持てる年齢になり一人前の罌撃ちとして猟をするのだ」という夢を持つようになりました。大学進学後二十歳になるのを待って、銃の所持許可証の交付を受け、猟を始めます。休みを利用して罌猟やシカ猟で腕を磨いた著者は卒業と同時にハンターとして生計を立てて行く道を選びます。驚嘆すべきは著者のハンターとしての腕前もさることながら、作家としての筆力です。「倒れたフキの跡から進んだ方向を判断し、ゆっくりと追っ気がつくと、いつの間にか体を低くして、這つよつにしている。立っていたときは景色が異なる。葉を透かして薄く差す光は蒼く薄暗いし、湿った匂いがし、音までが違っている。立っていたときは目につきにくい地味な褐色の小鳥、ヤブバシリだろうか。か細い声でチツチツと鳴き、込み合った藪を伝っていく。そしてときどき小さな羽音を立てて少しづつ飛び移って行く。落葉の重なった中を、クモや他の虫が動いている。・・・中略・・・」

足元で押し潰された小枝の折れる音が、小鳥の羽音と変わらぬいほごなのに、やけに大きく響くように感じられる。そんな藪の中を、罌はトンネルのような跡を残して歩いていく。全神経が耳に集中されてくる。ゆっくりと、ゆっくりと跡をつける。どこに潜んでいてもおかしくはない。「このような細やかな描写の中に、北海道の雄大な大自然の様子が感じることが出来る唇が乾いてくるような緊迫感にも囚われるのです。「乱れてくる呼吸を整えながら、一步一步登る。重い。この重さは罌の命の重さかもしれないと思う。こんな山の奥から運び出す苦労は、覚悟の上のことである。引き金を力加える前に、獲物の全責任を負うことを誓ったのだから。斃された命を決して無駄にするまい。運びきって、生きてきた価値を俺を通して発揮させてやるのだ。そう自分に言い聞かせながら歩く。」著者は獲物の全てを自力で運びきることによって命への責任を取るのです。又、今回ご紹介はしません。が、獲物の解体の様子を克明に描写したシーンは秀逸です。犬が登場する前に紙面が尽きてしまいましたが、次号では罌猟に使うアイヌ犬との出会いと、猟の様子をご紹介します。正月をこたつの中でお過ごし読者の皆さん、この本をお読みになれば、愛犬を連れて雪山へ出かけたいこと請け合いですよ！

今月の保健所だより

**「捨てないで！」**  
**「迷子にしないで！」**

保健所には、「飼えなくなった」、「生まれたけどもらいてがなかった」、「捨てられていた」等の理由により、犬やねこが保護・収容されます。保健所で保護・収容する犬やねこも、最初は飼い主がいたはずですが、「迷子にさせてしまった」、「いなくなっても探さなかった」、「子犬や子ねこを無計画に生ませてしまった」、「捨てた」等、飼い主の身勝手な都合によるものがほとんどです。

犬やねこなどの動物を飼い始める前に彼らと幸せに暮らせるか、最期まで飼うという飼い主としてあたりまえの責任を果たすためにも、次のことを考えてください。

- ・ 安易に飼い始めない！
- ・ 絶対に捨てない！
- ・ 犬には鑑札と狂犬病予防注射済票を、ねこには迷子札などの飼い主の連絡先を示すものを付ける。または、マイクロチップを埋め込む！
- ・ 迷子にさせない！
- ・ いなくなったらすぐ捜す！（保健所や警察などに連絡する）
- ・ 不妊または去勢手術を施し、無計画な繁殖をさせない！

※郡山市保健所では保護・収容した犬やねこの新しい飼い主を募集（譲渡）しています。詳しくは下記連絡先にお問い合わせください。

問い合わせ先 郡山市保健所生活衛生課動物愛護係 〒963-8024 郡山市朝日2丁目15-1  
☎024・924・2157 ☎024・934・2860 E-mail: sei-eisei-aigo@city.koriyama.fukushima.jp